

# 小貝川流域治水プロジェクト【位置図】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、利根川水系小貝川においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、小貝川本川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和61年8月洪水と同規模の洪水に対して、流域における浸水被害の軽減を図る。

### ■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、河道掘削、洪水調節施設の整備、築堤、河道改修、河道掘削、遊水地整備
- ・土砂災害対策
- ・水田貯留(田んぼダム)・雨水貯留施設整備・透水性舗装・浸透枘 等

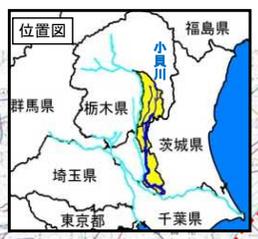
### ■ 被害対象を減少させるための対策

- ・「安全なまちづくり」に向けた取組
- ・立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導区域設定 等

### ● グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ

### ■ 被害軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・危機管理型水位計、簡易カメラの設置
- ・マイ・タイムライン普及促進
- ・広域避難計画の策定及び訓練
- ・ハザードマップの作成・周知
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・地域防災リーダーの育成
- ・水防災意識強化月間における集中的な普及・啓発活動の実施
- ・防災教育や防災知識の普及
- ・水防体制の強化
- ・緊急排水計画策定及び訓練
- ・水害リスク空白域の解消 等



- 【全域に係る取組】
- ・野焼きによる希少植物保全(市民参画)
- ・フジバカマの保全活動
- ・民間協働による水質調査
- ・地域のニーズを踏まえ、潤いと安らぎのある河川空間の保全



※○○川 は、県、政令市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。  
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。  
 ※氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策には、危機管理対策等は含まれていない。

凡例

- 治水メニュー
- グリーンインフラメニュー
- 堤防決壊箇所(戦後最大の昭和61年台風)
- 浸水範囲(戦後最大の昭和61年台風)
- 国管理区間
- 県境
- 市町境
- 流域境

# 小貝川流域治水プロジェクト【位置図】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

## ●グリーンインフラの取り組み『水辺の環境や風景を楽しみながら巡る、魅力あるサイクリングネットワーク構築による地域振興』

- 小貝川では、中・下流部の湿地や河畔林をはじめ、貴重な動植物の生息環境が多く残っている。治水・利水との調和及び流域の自然環境・社会環境との調和を図りながら、順応的な管理により自然環境の保全と適切な河川利用の促進を図る。
- 「茨城県総合計画」では、サイクルツーリズムを含む観光振興により、観光消費額を増加させることを目標に掲げている。これに寄与できるよう、概ね令和4年度までに、周辺自治体と連携したかわまちづくりの軸として、水辺の環境や風景を楽しみながら巡ることを目的としたサイクリングネットワーク構築のため、側帯等を活用したりバースポット11箇所の整備を進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

### ●治水対策における多自然川づくり

- ・多様な生物の生息環境創出

### ●魅力ある水辺空間・賑わい創出

- ・かわまちづくり（鬼怒川・小貝川）

### ●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・野焼きによる希少植物保全（市民参画）
- ・オオムラサキの保全活動
- ・フジバカマの保全活動
- ・民間協働による水質調査



# 小貝川流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

●小貝川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】本川は下流域より堤防整備、河道掘削、貯留施設の整備を実施し、支川では河道改修・遊水地整備を実施。  
安全なまちづくり(立地適正化計画に基づく防災指針の検討等)の策定

【中期】本川下流域の堤防整備、河道掘削を実施。

【中長期】本川上流域の堤防整備、河道掘削及び洪水調節施設の整備を実施。  
内水被害軽減対策(雨水貯留施設の新設等)等の流域における対策、タイムラインの活用等を実施。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	下流域の堤防整備、河道掘削 等	下館河川事務所・茨城県	堤防整備・河道掘削完了		
	上流域の堤防整備、河道掘削 等	下館河川事務所	堤防整備・河道掘削完了		
	洪水調節施設の整備	下館河川事務所	洪水調節施設整備完了		
	支川の築堤、河道改修、河道掘削、遊水地整備 等	栃木県・茨城県	五行川 芳賀遊水地完了		
被害対象を減少させるための対策	水田貯留（田んぼダム）・雨水貯留施設整備・透水性舗装・浸透枳 等	宇都宮市・真岡市・さくら市・益子町・市貝町・芳賀町・高根沢町・龍ヶ崎市・下妻市・常総市・取手市・つくば市・守谷市・筑西市・つくばみらい市	旧川跡を活用した貯留施設整備（筑西市）		
	「安全なまちづくり」に向けた取組 立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導区域設定	(作成済)宇都宮市・真岡市・芳賀町・下妻市・常総市・守谷市・つくばみらい市 (作成中)筑西市	立地適正計画策定（筑西市）		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	マイ・タイムライン普及促進・ハザードマップ作成、周知・地域防災リーダーの育成・防災教育や防災知識の普及 等	下館河川事務所・栃木県・茨城県・宇都宮市・真岡市・さくら市・益子町・市貝町・芳賀町・高根沢町・龍ヶ崎市・下妻市・常総市・取手市・つくば市・守谷市・筑西市・つくばみらい市			
グリーンインフラの取組	多様な生物の生息環境創出	下館河川事務所、栃木県	河道掘削		
	かわまちづくり	下館河川事務所、かわまちづくり協議会（筑西市、結城市、八千代町、下妻市、常総市、つくばみらい市、守谷市）	リバースポット整備完了		
	野焼きによる希少植物保全	地域住民			
	オオムラサキの保全活動	下妻市			
	フジバカマの保全活動	地域住民			
	民間協働による水質調査	沿川住民			

**■河川対策**  
 全体事業費 約508億円  
 対策内容 堤防整備、河道掘削、洪水調節施設の整備 等

**■下水道対策**  
 全体事業費 約42億円  
 対策内容 雨水貯留施設整備 等



※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。  
 ※■■■■■■:対策実施に向けた調整・検討期間を示す。

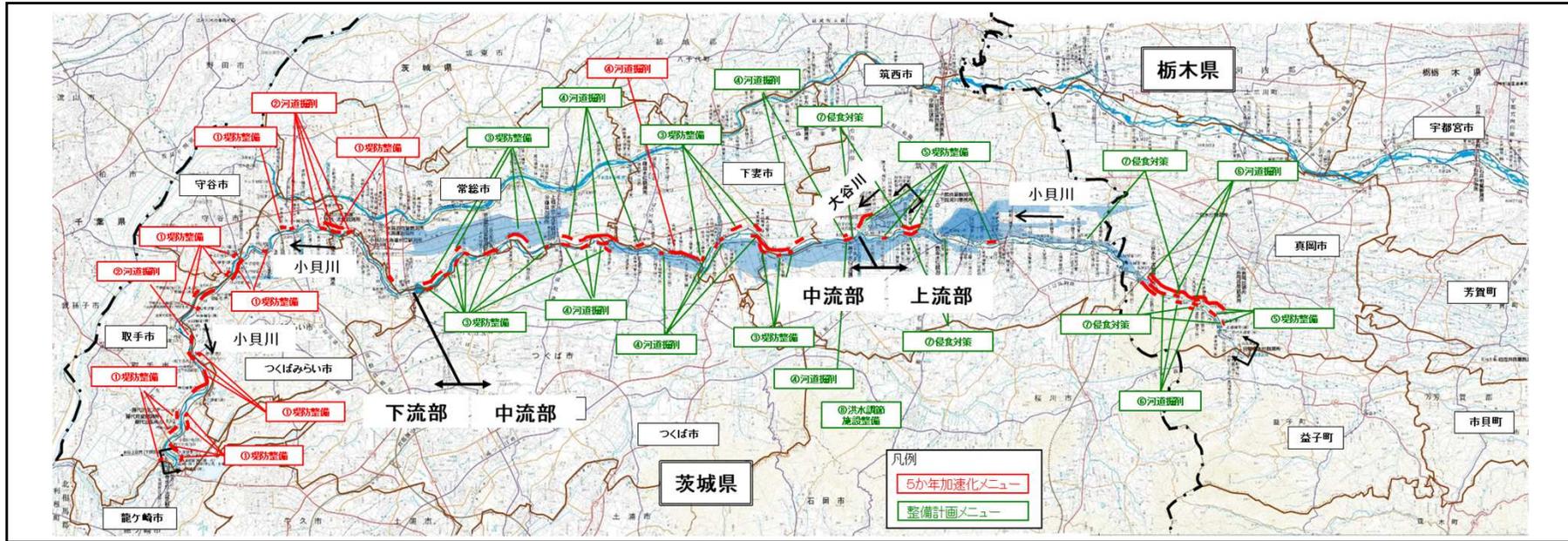
# 小貝川流域治水プロジェクト

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

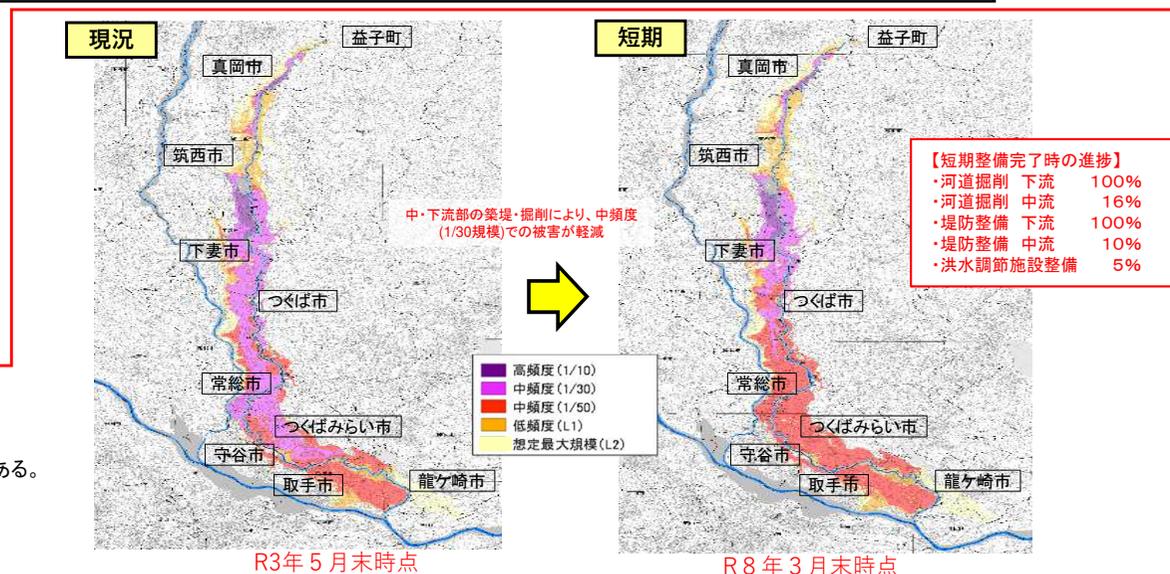
進捗と効果 (R4.3版)

○支川大谷川合流点より下流までの堤防整備、河道掘削・樹木伐採が令和6年度までに完了することで、支川大谷川合流点より下流部において河川整備計画目標流量を安全に流下させることが可能。

短期整備(5カ年加速化対策)効果：河川整備率 約53%→約58%(整備計画規模)



対策内容	区間	工程		
		短期	中期	長期
②河道掘削	下流	100%		
④河道掘削	中流	16%	100%	
⑥河道掘削	上流			100%
①堤防整備	下流	100%		
③堤防整備	中流	10%	100%	
⑤堤防整備	上流			100%
⑦侵食対策	中・上流			100%
⑧洪水調節施設整備	中流部	5%		100%



注：洪水浸水想定区域図作成マニュアル(第4版)に基づき、小貝川(直轄管理区間)が氾濫した場合に、浸水深が0cmより大きい浸水範囲をシミュレーションにより予測したものである。  
 注：想定最大規模については、平成29年3月に公表した洪水浸水想定区域図である。  
 注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。  
 注：国直轄事業の実施によるものであるが、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

算出の前提となる降雨  
 小貝川流域の3日総雨量  
 高頻度(1/10):198mm 中高頻度(1/30):247mm 中頻度(1/50):270mm 低頻度(1/150):318mm 想定最大規模:778mm

# 小貝川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

 <p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備率</p>	 <p>農地・農業用施設の活用</p>	 <p>流出抑制対策の実施</p>	 <p>山地の保水機能向上・土砂・流木対策</p>	 <p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>	 <p>水害リスク情報の提供</p>	 <p>高齢者等避難の実効性の確保</p>
(令和7年度末時点)	(令和〇年〇月時点)	(令和〇年〇月時点)	砂防事業による保全箇所 〇〇施設 (令和〇年〇月時点)	(令和〇年〇月時点)	内水浸水想定 〇〇団体 (令和〇年〇月時点)	個別避難計画 〇〇市町村 (令和〇年〇月時点)

## 【集計中】

### 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



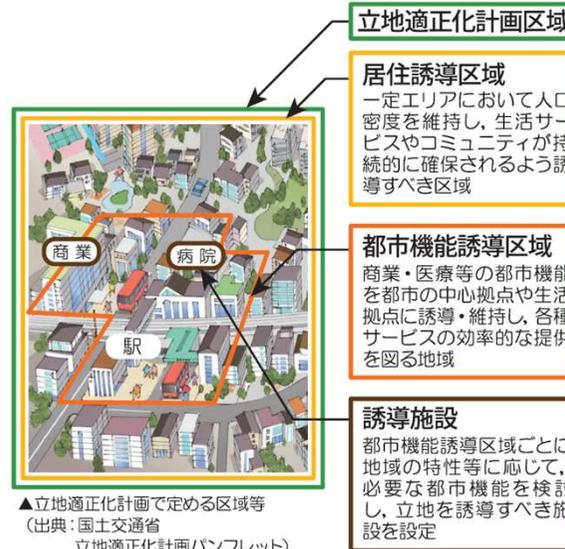
宇都宮市における田んぼダム

○農耕地の対策メニューとして水田貯留の「田んぼダム」がある。小貝川では複数の市町において導入及び検討が進んでいる。

#### 【令和3年度の実績】

- ・今後実施に向けて検討の開始を決めた地方自治体が2箇所(常総市、筑西市)

### 被害対象を減少させるための対策



○居住誘導区域等を定め、住民の居住エリアを誘導する施策である。小貝川では複数の市町において導入及び検討が進んでいる。

#### 【令和3年度の実績】

- ・常総市において計画をR3. 11. 1に公表
- ・今後実施に向けて検討の開始を決めた地方自治体が1箇所(筑西市)

### 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策



スキルアップ講座の様子

講師→



○下館河川事務所において「マイ・タイムラインリーダー スキルアップ講座」(web会議方式)を令和3年度に開催した。当日は、マイスター2名を含む47名の参加者に対して、「リスクの見える化」について説明した。その他に「マイ・タイムライン作成講座」を筑西市で実施した。



筑西市